

報道関係者各位

2026 年 7 月 14 日（火）
一般財団法人日本産業芸術財団

産業の現場を舞台にした新しい分散型芸術祭
「瀬戸内産業芸術祭 2026」 今秋初開催

— 2026 年 10 月 3 日（土）～10 月 31 日（土）、岡山・愛媛の産業現場 7 会場で —

一般財団法人日本産業芸術財団（所在地：岡山県玉野市、代表理事：伊藤 正裕、以下「当財団」）は、2026 年 10 月 3 日（土）から 10 月 31 日（土）まで、岡山・瀬戸内エリアを舞台に「瀬戸内産業芸術祭 2026」を初めて開催します。本芸術祭の趣旨に賛同する地域の 7 つの企業・団体とともに、いまでも稼働を続ける工場や産業の現場を会場に、ひと月にわたる芸術祭をつくりあげます。



塩業、繊維、造船——瀬戸内の暮らしを支えてきた産業から、蓄電池や資源循環といった現代の産業まで。瀬戸内産業芸術祭は、多彩な産業の現場そのものを舞台にした、新しいかたちの芸術祭です。アーティストたちは、ものづくりの現場に流れる時間、積み重ねられた技術、働く人々の風景を、それぞれの視点で再解釈します。普段は扉の向こうにある産業の現場がアートを通じてひらかれ、地域全体がひとつの「分散型美術館」になる——そんな体験をお届けします。

瀬戸内産業芸術祭 2026 の特徴

1. 稼働中の工場・産業現場等 7 会場を、アートの舞台として公開
2. 製塩、学生服、デニム、造船関連、蓄電池、資源循環など、多彩な産業を横断
3. 妹島和世、長谷川祐子らの監修による、その場所でしか成立しない展示・ツアー

■ 開催の背景

日本の経済を長く支えてきた製造業は、いま、担い手不足や技能継承、地域産業の発信力の低下といった課題に直面しています。地方のものづくりの現場には、高い技術と豊かな歴史がありながら、その魅力が十分に伝わっていないことも少なくありません。

瀬戸内産業芸術祭は、そうした産業の価値をアートの視点から再発見し、地域の内と外へひらいていく試みです。工場やプラントを単なる生産拠点としてではなく、地域の歴史・技術・人の営みが息づく文化的資産として捉え直します。若い世代をはじめとする幅広い人々が地域産業に触れる入口をつくり、産業への新たな関心と文化的価値の創出を目指します。

本芸術祭の構想は、国土交通省「地域・日本の新たなレガシー形成事業」に令和5年度・令和6年度の2年度にわたり採択され、実現可能性調査を重ねてきました。その一環として、初開催に先駆け、2025年1月には岡山県玉野市の地元企業3社の工場を会場に、アーティストによる作品を展示するモニターツアーを実施。3日間で計183名が参加し、参加者アンケートでも高い評価を得ました。これらの成果を踏まえ、2026年秋の初開催に至ります。

■ 「産業芸術」という考え方

当財団が掲げる「産業芸術」とは、工場や産業現場に蓄積された技術、人の営み、地域の歴史を、アーティストの視点から再解釈する試みです。機能と効率の場として見られがちな産業の現場には、熟練した人の手、巨大な設備、そして土地の記憶が幾重にも積み重なっています。アートを通じてその価値をひらき、身近で豊かな体験として伝えていきます。

■ 開催概要

名称	瀬戸内産業芸術祭 2026（英語名称：Setouchi Art and Industry 2026）
会期	2026年10月3日（土）～10月31日（土） ※作品ごとの公開日時は公式サイトにて発表予定
会場	岡山県（岡山市・玉野市・倉敷市）、愛媛県（東温市）の参画企業の工場・産業現場等7会場
主催	一般財団法人日本産業芸術財団
参画企業（予定）	藤クリーン株式会社、児島ジーンズストリート協同組合、ナйка塩業株式会社、株式会社トンボ、株式会社パワーエックス、三国工業株式会社、オオノ開発株式会社
後援（予定）	玉野市、TSCテレビセとうち、株式会社電通西日本、西日本旅客鉄道株式会社岡山支社、株式会社リョービツアーズ
鑑賞方法	会期中の公開日時は会場ごとに異なります。全作品事前予約制とし、ツアー形式または個別チケットでの鑑賞を予定。料金・販売開始時期・購入方法は、7月中を目安に公式サイト（sai-art.jp）にてご案内します。
公式サイト	https://www.sai-art.jp/
公式 YouTube	https://www.youtube.com/@setouchiartandindustry

■ 展示作品・展示作家（予定）

会場（参画企業）	所在地	展示作家	監修
藤クリーン株式会社	岡山県岡山市	合同会社バンクトゥ	長谷川 祐子、大倉 佑亮、三宅 敦大
児島ジーンズストリート	岡山県倉敷市	・旧野崎家住宅の展示： SYMBOLPLUS ・第二展示：調整中	・旧野崎家住宅の展示：佐竹 正基 ・第二展示：長谷川 祐子、大倉 佑亮、三宅 敦大
ナйкаイ塩業株式会社	岡山県玉野市	山本 基／SYMBOLPLUS	佐竹 正基
株式会社トンボ	岡山県玉野市	調整中	佐竹 正基
株式会社パワーエックス	岡山県玉野市	SAI	佐竹 正基
三国工業株式会社	岡山県玉野市	MANTLE（伊阪 柊＋中村 壮志）	長谷川 祐子、大倉 佑亮、三宅 敦大
オオノ開発株式会社	愛媛県東温市	西沢 立衛／増田信吾＋大坪克亘／山田 紗子	妹島 和世 アドバイザー：長谷川 祐子、大倉 佑亮、三宅 敦大

※展示作家・会場は追加・変更となる場合があります。最新情報は公式サイトをご確認ください。各作品の紹介と監修体制は別紙をご覧ください。

■ 参画企業（予定）

- ・ 藤クリーン株式会社（岡山県岡山市） | 「廃棄物を資源へ」を掲げ、産業廃棄物の収集運搬から中間処理・最終処分までを一貫して担う。
- ・ 児島ジーンズストリート協同組合（岡山県倉敷市） | 「国産ジーンズ発祥の地」児島で、約 400 メートルの通りに地元メーカー約 40 店舗が軒を連ねる。
- ・ ナйкаイ塩業株式会社（岡山県玉野市） | かつての塩田で培われた製法を礎に、瀬戸内の海と歴史が生んだ塩を今に受け継ぐ製塩会社。
- ・ 株式会社トンボ（岡山県玉野市） | 1876 年、玉野・八浜の足袋製造を起点に学生服へと進化した、創業 150 年を誇る日本有数の学生服メーカー。
- ・ 株式会社パワーエックス（岡山県玉野市） | 蓄電システムの開発・製造を軸に、電気を蓄え、必要なときに届ける仕組みづくりまでを一貫して手がけるエネルギー企業。玉野の工場「Power Base」を拠点に、持続可能なエネルギー社会の実現に挑む。
- ・ 三国工業株式会社（岡山県玉野市） | 大正 6 年創業。国内シェアトップを誇る船用大型エンジン部品をはじめ、設計から製作・修理までを一貫して手がける。
- ・ オオノ開発株式会社（愛媛県東温市） | 解体・土木から産業廃棄物処理、汚染土壌の浄化までを手がけ、半世紀にわたり地域の環境事業を築く。

■ 一般財団法人日本産業芸術財団について

名称	一般財団法人日本産業芸術財団（英語名称：Japan Art & Industry Foundation）
所在地	岡山県玉野市宇野 1 丁目 1 1 番 1 号 宇野港土地ビル
代表理事	伊藤 正裕（株式会社パワーエックス 取締役 代表執行役社長 CEO）
役員等	理事：平垣内 久隆、長島 聡／評議員：妹島 和世、和田 浩一、岸 勇希／監事：北島 隆次
体制	クリエイティブディレクター：佐竹 正基／クリエイティブプロデューサー：嶋 明良
活動内容	工場や産業現場を舞台に、アートを通じて日本のものづくりの価値と魅力を再発見・発信する。産業と芸術の融合による新たな体験創出、次世代育成、地域文化と経済の活性化を図り、持続可能な社会と産業文化の発展に寄与する。
ウェブサイト	https://www.sai-art.jp/foundation

メディア掲載用途でお使いいただける、画像等は以下のメディアキットをご活用ください。

https://drive.google.com/drive/folders/1AcOTK_-ytfP44ZAof7ZY8STJ9OuyXWR?usp=sharing

■ 本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

一般財団法人日本産業芸術財団 瀬戸内産業芸術祭 事務局

担当：大津 / チェン

MAIL：pr@sai-art.jp / TEL：090-8509-6064

【別紙】

瀬戸内産業芸術祭 2026 展示作品・監修体制のご紹介

■ 展示予定の作品の紹介

● 藤クリーン株式会社（岡山県岡山市） | 合同会社バンクトゥー

—— 資源循環の現場を巡り、未来を考えるツアー

「廃棄物を資源へ」を掲げ、産業廃棄物の収集運搬から中間処理・最終処分までを一貫して担う藤クリーン。循環型社会を支える現場を巡りながら、未来を考えるツアー型の展示を予定しています。作品の詳細は、公式サイトにて順次発表します。

● 児島ジーンズストリート・旧野崎家住宅（岡山県倉敷市） | SYMBOLPLUS

—— 作り手が繋ぐ、世界の児島デニム

デニムづくりの原点である綿花から、一着のジーンズへと受け継がれる児島デニムのものづくりをテーマに、デザインユニット・SYMBOLPLUS が手がける空間インスタレーションを歴史的な日本建築の中に展開。綿花畑を再構築した空間とともに、児島ジーンズストリーの工場やショップを巡るラリー形式のツアーを通して、分業によって支えられる職人の手仕事や地域に根付くものづくりの文化を体感。一本のデニムに込められた時間と技術を、新たな視点から見つめ直す展示です。加えて、第二展示も制作を予定しています。詳細は後日発表予定です。

● ナイカイ塩業株式会社（岡山県玉野市） | 山本 基『たゆたう時（Floating Time）』

—— 瀬戸内海をそのまま塩に。その歴史と製造の軌跡をめぐる旅

瀬戸内の風土が育んだ製塩文化をテーマに、アーティスト・山本基がナイカイ塩業の塩だけを用いて制作する大規模インスタレーション。内装はデザインユニット・SYMBOLPLUS が手がけ、工場という製造現場を、塩の白さや土地の記憶が際立つ鑑賞空間へと構成します。時間の積み重ねや人々の営み、自然との関わりを、芸術を通して体感できる展示です。

● 株式会社トンボ（岡山県玉野市） | オーディオドラマ三部作『もうひとつの青春』

—— 仕立てられていく、青春の始まりに、自分の記憶を重ねる旅

制服は、ただ身につける衣服ではなく、誰もが青春を重ねた記憶の器でもあります。日本中の学生服を生み出すトンボ学生服の工場で、資材倉庫から縫製、検品、アイロンまでの製造工程を巡りながら、三人の作家によるオーディオドラマを鑑賞。それぞれ異なる視点から紡がれる“もうひとつの青春”を通して、ものづくりの現場に宿る想いや、制服が見つないできた時間に出会うツアーです。

● 株式会社パワーエックス（岡山県玉野市） | SAI『電気と蓄電の可視化 — “調整力”』

—— 社会を支える調整力を、未来の工場で体験する

再生可能エネルギー時代に欠かせない蓄電技術をテーマに、目に見えない「電気」と「調整力」（発電量と電力需要の変動を埋め、電力の安定供給を支える力）を空間全体で可視化したインスタレーション。大型蓄電池を製造するパワーエックスの工場を舞台に、光や空間演出によって、電力を蓄え、必要な時に供給する蓄電池の役割を直感的に体験できます。制作を手がけるSAIは、本芸術祭の展示制作のために発足したアノニマスの産業芸術家集団で、作品ごとに構成員を柔軟に入れ替えながら活動します。

● 三国工業株式会社（岡山県玉野市） | MANTLE（伊阪 柊＋中村 壮志）

—— 造船技術の鼓動を、巨大なスケールで体感する

国内シェアトップを誇る船用大型エンジン部品を手がける三国工業の現場を舞台に、アートコレクティブ・MANTLE が作品を展開します。直接見ることのできない現象や、人間の時間軸を超えた事象のシミュレーションを試みてきた MANTLE が、造船の街・玉野で、船の心臓部をつくる現場を再解釈します。作品名（仮）：『船・心臓音・鉄 Ship / Pulse / Steel』

● オオノ開発株式会社（愛媛県東温市） | 西沢 立衛／増田信吾＋大坪克亘／山田 紗子

—— 産業の終点と、再生の始点に出会う体験

サスティナブルな環境の実現を目指すオオノ開発。会場となるのは、東温市の複合リサイクルプラント内にある管理型処分場です。処分場として使われる谷は、廃棄物と土が混ざらないよう地面と縁を切られた大きな鉢のような構造で、およそ 15 年をかけて廃棄物で埋まっていきます。見学者はマテラカラーの現場服をまとい、バスで頂上近くへ。谷の淵や人工的につくられた丘の上から、ダイナミックな処分場の風景を体験します。自然と人工物と人間がつくる風景が浮かび上がり、循環を身体で感じることでできる展示です。建築家・妹島和世の監修のもと、西沢立衛、増田信吾＋大坪克亘、山田紗子が展示を手がけます。

■ 監修体制



©SANAA

● 妹島 和世（建築家／日本産業芸術財団 評議員）

建築家・東京都庭園美術館館長。茨城県生まれ。1987 年妹島和世建築設計事務所設立、1995 年西沢立衛とともに SANAA を設立。2010 年第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の総合ディレクターを務める。主な受賞にプリツカー賞、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、日本建築学会賞、王立英国建築家協会ロイヤル・ゴールド・メダルなど（いずれも SANAA として）。2024 年文化功労者。主な建築作品に金沢 21 世紀美術館、ニューミュージアム（ニューヨーク）、ルーヴル・ランス、犬島「家プロジェクト」（岡山市）など。本芸術祭ではオオノ開発（愛媛）の展示を、西沢立衛建築設計事務所・山田紗子建築設計事務所とともに監修します。



● 長谷川 祐子（キュレーター／東京藝術大学名誉教授／前・金沢 21 世紀美術館館長／「森の芸術祭 晴れの国・岡山」アートディレクター（2024・2027））

美術史家。京都大学経営管理大学院客員教授、国際文化会館アートデザイン部門プログラムディレクター。イスタンブール、上海、サンパウロ、シャルジャ、モスクワ、タイなどのビエンナーレをはじめ数々の国際展を企画。文化庁長官表彰（2020 年）、フランス芸術文化勲章オフィシエ（2024 年）などを受章。本芸術祭では、キュレーターの大倉 佑亮（「森の芸術祭 晴れの国・岡山」アシスタント・キュレーター）、三宅 敦大（キュラトリアル・コレクティブ HB. 共同ディレクター）を含むチームを率い、三国工業・児島ジーンズストリート・藤クリーンの展示を監修します。



● 佐竹 正基（株式会社パワーエックス デザイン部長／日本産業芸術財団 クリエイティブディレクター）

グエナエル・ニコラに師事し、プロダクトブランド開発や建築・内装設計を経験。

LINE で BX デザイナーとしてブランド体験設計に従事した後、現在はコーポレートロゴから製品・アプリケーションまで幅広いデザインとクリエイティブディレクションを統括。Red Dot や iF Design Award など国際的なデザイン賞を受賞。本芸術祭では、展示のキュレーションとブランディングの統括を担います。